

グランプリ

「考えよう、沖縄」の未来

琉球大学 観光産業科学部 4年次 上原 真喜

皆さんは、「IR」という言葉を耳にしたことがありますか。「IR」とは「Integrated Resort」の頭文字で、カジノやコンベンション、ウェディング、アミューズメント、ショッピング、グルメ、エンターテイメント、ホテル等様々な機能を兼ね備えた複合施設、統合リゾートのことを指します。そうです。以前から沖縄県で検討されているカジノ・エンターテイメントも、実はこの「IR」なのです。

今から67年前に沖縄戦という辛い過去を経験した沖縄は、そこからめざましい復興を遂げ、今年めでたく本土復帰40周年という節目の年を迎えました。しかし、沖縄は未だ依存経済から抜け出せず、全国ワースト1位の失業率をはじめ、どの指標から見ても経済水準は全国平均をはるかに下回っているという厳しい現状にあります。よって、今後の沖縄の課題として「自立経済の構築」が第一に挙げられるでしょう。では、沖縄の「自立経済の構築」に向けて、私達はどうしたら良いのでしょうか。よく、沖縄の経済を「3K（基地・観光・公共事業）」とも表しますが、観光は今や沖縄のリーディング産業となっており、「観光」こそが今後の沖縄発展の重要な鍵を握ると私は考えます。

そこで、沖縄観光の現状を見てみると、現在沖縄は観光立県として入域観光客数1千万人を目指すも、東日本大震災等の影響もあってその数は伸び悩み、昨年は550万人程度に留まっています。また、その内訳を見てもリピーターが全体の約8割にも及ぶ一方で外国人観光客は5%程度しかいなく、新規顧客の獲得や国際的知名度のアップ、消費額の増大等、沖縄観光客が抱える課題は山積みです。そこで、これからの課題を解決し、「世界水準の観光地」を目指すための一手段として、新しい観光メニュー「IR」の導入が検討されているのです。

私はこれまでの大学生活の間に、二度カジノを訪問してきました。韓国済州島のホテルカジノとマカオの IR 施設の 2 つですが、両者は両極端とも言えるほどに良い失敗例と成功例を私に見せてくれました。韓国本土の南に位置し沖縄に大変良く似た素朴な島、済州島には複数のカジノがありますが、ただ国際的知名度を上げるための材料と言ってもいいほどに経営はどこも上手くいっていないのが現状です。実際、私が視察したホテルカジノも閑散としており、済州島の学生も皆カジノのことを良く思っていないでした。一方のマカオはカジノをきっかけに観光誘客に成功し、税金の約 8 割をカジノから得て警備強化や医療費・教育費等として住民に還元しています。また 2005 年には 30 か所もの広場や遺跡が新たに世界遺産として登録される等まさにカジノによる恩恵を一身に受けていました。

これら失敗・成功両者を見たうえで、「果たして沖縄にカジノは必要なのか。」私 1 人だけでなく、共にマカオの IR を視察したゼミのメンバーとも議論を重ねましたが、メリット・デメリットを考え出したらきりがなく、結局賛成・反対を決めることはできませんでした。カジノの、IR の、リスクも可能性も知ったからこそ余計にわからなくなった、というのが私自身の正直な感想です。しかしだからと言って全く収穫がなかったというわけではありません。実際にカジノを訪問し、世界各国のカジノ事情や県の IR 計画について調査をしたからこそ気付けたこと。それは、私がこれまで沖縄や世界のことについてあまりにも「知らなさすぎた」という事実です。

私は、地元沖縄が大好きで、それは今も昔もこれからも変わることはありません。うちな〜んちゅは人一倍地元愛が強いので、きっと皆さんも同じ気持ちだと思います。しかし好きだからと言ってただ守るだけが全てではないということ。これを今回改めて思い知らされました。沖縄が好きだからこそ、沖縄の良い所にも悪い所にもしっかりと目を向け、より良い沖縄を創り上げるために必要で

ないものとそうでないものを県民皆で一つ一つ取捨選択していかなければなりません。

また、県の構想をきちんと勉強したからこそ初めて見えてきた課題もあります。それは県が打ち出している建設費用や予測される来場者数・波及効果等の数字に今一つ確信が持てないということ。やはり IR 導入は治安問題等様々なリスクが懸念されるデリケートな問題だからこそ慎重にもなりますし、それら懸念要素をはるかに上回るだけの確実な経済波及効果を大前提として求めてしまうのは、県民として当然のことでしょう。IR を造ったことのある実績と豊富な知識を持った人物を専任のプロジェクトマネージャーとして置く等、より確実性の高い計画の提示をして頂きたい、そして次世代の沖縄を担う私達若者にこそもっと知る機会を与えて頂きたい、というのが学生の立場である私からの、県に対する率直な意見です。しかし、これはもちろん県や一部の関係者のみが頑張るべき問題ではありません。むしろ今後の沖縄を支えていく私達若者こそが他人事ではなくもっと積極的に沖縄の未来を考えていくべきではないでしょうか。県が考えてくれた具体的な改善案をしっかりと理解したうえで正しく審査していくことこそが私達に与えられた重要な使命だと考えます。

私がこの場をお借りして県民の皆さんに伝えたいこと、本当の意味で沖縄の未来を考えられる人になってほしいということです。特に、次世代を担う私達若者こそ、率先して沖縄の将来を考えていく必要があると思います。沖縄に対して無関心すぎるのが私達若者の反省すべき点であり、一人一人の意識を変えるだけで沖縄観光は今後ますます発展していけることでしょう。よりよい沖縄の未来のために、まずは一步「知る」努力から始めていきませんか。